

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立北はりま特別支援学校

単元名

選択「レクリエーション」

指導目標

- ・生徒同士で相談しながら、ゲームやツリーの共同制作を楽しむことができる。
- ・多可高生と一緒にレクリエーションの役割分担を決め、実行することができる。

生徒の実態

大人しい性格の生徒が多く、積極的に関わることを苦手としている学年であるが、場に慣れてくると自ら働きかける生徒もいる。多可高2学年生徒に引っ張られるように、交流及び共同学習の回数を重ねるごとに互いにスムーズな関わりが見られた。

事前学習

日程と併せて、多可高生が考えたレク計画書を各クラスで紹介し、ゲームのイメージを持たせ、当日の役割分担を考えた。

学習活動（具体的な取組）

多可高生のレクリエーションの授業に参加し、共同学習を行った。

- ・はじめの式
- ・班別で打ち合わせ
- ・レクリエーション発表（4班）
- ・クリスマスツリーの共同制作
- ・おわりの式

支援と留意点

- ・事前に聞いている役割分担を確認し、具体的なイメージをつくる。
- ・場の設定や変更を互いに協力して行うよう声掛けする。
- ・生徒同士で助け合って飾りを作れるようにペアで取り組む等の声掛けする。

評価

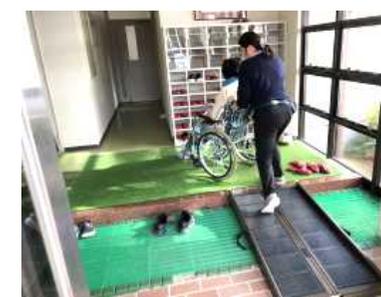
これまでの積み上げで築いた関係を活かしてスムーズに活動に入ることができた。初めはどうしてもコミュニケーションがとりづらかったが、班に分かれレクの活動になれば、すぐに笑顔で活動に参加することができていた。また、レクの計画書を事前に送ってもらうなどしたことで、北はりまの生徒が見通しを持ち、役割を担い、共同で発表することができた。最後には完成した大きなクリスマスツリーをいただき、生徒も大変喜んでいました。

一方で一部の生徒はこういった活動にプレッシャーを感じ、話せなかったという生徒もあった。

活動の様子



福笑い、多可高生がパーツを渡し、北はりま生が目かくしをしてチャレンジ



多可高校、段差には簡易スロープで対応してもらっている。

事後学習

学年で改めて集まることはできなかったが、各クラスで感想を発表するなどした。また、この経験を活かし、次の交流及び共同学習でも同様の班別レクリエーションを取り入れ、今度は北はりまの生徒が主体となり多可高生を迎え、司会やゲームの運営を行うことができた。

成果と課題

成果としては、同年代の仲間と活動を共にすることで、社会性を養う貴重な機会となった。また、他者との関わりが苦手な生徒についても、自己を理解するきっかけとなったり、集団参加の方法を工夫したりするよい機会となった。

課題としては、日程調整や活動内容について直前に変更を知らされ、慌てて対応することもあったので、顔を合わせて直前に打ち合わせを行うなど回数を増やす必要がある。また、互いの行事や授業に支障が出ているという声も聞かれるので、無理をしない選択も考えないといけないと感じた。